

人材養成および教育研究上の目的	
<p>商学研究科商学専攻は、商学と経営学に関する専門的知識と体系的思考力を備え、流動的で複雑さを増す現代社会をリードし、新しい社会を創造する、高い学識と卓越した能力を有する人材の育成を教育研究の理念とし、研究者と専門職業人の養成及び再教育を目指す。そのため、積極的に多様な動機を持った学生を受け入れ、その様々なニーズに応じたカリキュラムを提供する。博士課程前期では、商学と経営学の二つのコースを設け、修了者には修士(商学又は経営学)の学位を授与する。学術的関心の高い学生のために、学部の専門科目に連動した高度の科目群を提供し、税理士などの経理専門職を目指す者には、速やかな資格取得のための教育指導を行う。生涯学習やリカレント教育を求める社会人には、夜間にも開講して便宜を図る。さらにまた、海外からの留学生にも広く門戸を開放する。博士課程後期では、研究職を目指す者、高度専門職業人及びリカレント教育を求める社会人に、高度の学術的・専門的研究を成就させ、丁寧な学位取得のための指導を行うことによって、博士(商学)の学位を授与する。</p>	

三つの方針(三つのポリシー)			
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)	学生の受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)	
<博士課程前期>			
<p>商学研究科商学専攻は、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、修士(商学)の学位を授与する。</p>			
知識・理解	<p>【学修成果の目標】 ・専門的職業人として活動するために必要な商学に関連する高度な専門知識や研究能力を修得し活用することができる。(DP1)</p> <p>【到達指標】 ・修了に必要な授業科目の単位数を取得している。(DP1) ・研究成果を修士論文として作成し提出することができる。(DP1)</p>	<p>【教育課程の編成】 ・商学研究科コースでは主要科目と専門科目を設置している。商学分野における研究者および専門的職業人の要請ならびに社会人リカレント教育に応えるため、商学に関する基礎理論およびその応用を具体化したカリキュラムで教育・研究指導を行っている。</p> <p>【教育課程の実施(教育方法・授業形態等)】 ・商学研究科では、講義・演習を体系的に組み合わせ、学生が自主的に学び、学習意欲・関心を高め、豊かな地域社会づくりに貢献する力を養うことを目指す。 ・講義・演習科目ではリサーチ能力・コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等を養成する手法を効果的に取り入れる。さらに、社会経済環境の変化に適用するため、ICTを活用した講義形態を随時実施している。また、アクティブラーニングについても、今後積極的に取り組む方向で、試験的な運用を始めている。 ・シラバスには授業の概要や成績評価方法に加え、予習・復習に必要な学修時間を明確に記載し、適切な学修時間を確保している。 ・学位論文については、学内での公開の発表会等を通じて主査・副査をはじめとする複数の教員から指導が受けられる機会を設けている。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ・修了に必要な授業科目の単位数とシラバスに記載された各授業科目の到達目標ならびに成績評価基準により評価する。(DP1) ・公開での論文発表会、主査と副査による最終試験により評価する。(DP1)</p>	<p>【求める学生像】 (1)産業界の中で活躍する専門的職業人(公認会計士・税理士等)を目指す者には、専門領域に関する基礎知識および社会的使命感を求める。 (2)リカレント教育のもと学び直しを志す社会人には、社会経験に基づく問題意識や商学的または経営学的素養を求める。 (3)課程修了後、博士課程後期への進学を目指す研究者志望の者には、研究領域に関する基礎知識、強い知的探求心、研究能力および外国語能力を求める。 (4)留学生志願者には一定の日本語能力および多文化理解への積極性を求める。</p>
	<p>【学修成果の目標】 ・商学に関連する幅広く高度な専門知識に基づいた優れた課題発見能力及び課題解決能力を有している。(DP2) ・独創的な視点から研究を行い、必要な情報を収集・分析し、修士論文へと結実することのできる論理的思考力と論文作成能力を有している。(DP3) ・論理的思考力と論文作成能力を身に付けることによって自身の主張を明確に述べることができる。(DP4)</p> <p>【到達指標】 ・研究内容を独創的に修士論文に結実することができる。(DP2, DP3, DP4)</p>	<p>【教育課程の編成】 ・知識・理解の【教育課程の編成】に含まれる。</p> <p>【教育課程の実施(教育方法・授業形態等)】 ・知識・理解の【教育課程の実施(教育方法・授業形態等)】に含まれる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ・学位論文の成果については、商学研究科で定めた修士論文審査基準に則って評価する。(DP2, DP3, DP4) ・公開での論文発表会、主査と副査による最終試験により評価する。(DP2, DP3, DP4)</p>	<p>【入学者選抜の在り方】 (1)一般入学試験では、自主的に研究を進めるために必要となる専門領域に関する基礎知識や知的探求心、研究能力、外国語能力を有する学生を選抜するため、専門科目試験・外国語試験・口頭試問等によって総合的に評価する。 (2)推薦入学試験では、本学学部生として優れた基礎学力を修得し、専門領域に関する研究への知的探求心を有する学生を選抜するため、口頭試問によって総合的に評価する。 (3)社会人入学試験では、社会経験に基づく明確な問題意識や商学的または経営学的素養を有する学生を選抜するため、専門科目試験・外国語試験・口頭試問等によって総合的に評価する。</p>
	<p>【学修成果の目標】 ・商学に関連する基礎知識を蓄える意欲を持っている(DP5) ・商学に関連する強い知的探求心を持ち続けることができる。(DP6)</p> <p>【到達指標】 ・修了要件に定める所定の単位を修得している。(DP5) ・新しい企業価値を創造することができる。(DP6)</p>	<p>【教育課程の編成】 ・知識・理解の【教育課程の編成】部分に含まれる。</p> <p>【教育課程の実施(教育方法・授業形態等)】 ・知識・理解の【教育課程の実施(教育方法・授業形態等)】に含まれる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ・学修成果は修了に必要な授業単位数と成績により評価する(DP5, DP6)</p>	<p>(4)外国人留学生試験では、一定の日本語能力や、自主的に研究を進めるために必要となる専門領域に関する基礎知識を有する学生を選抜するため、書類選考・専門科目試験・外国語試験・口頭試問等により総合的に評価する。</p>

＜博士課程後期＞

<p>商学研究科商学専攻は、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、博士（商学）の学位を授与する。</p>	<p>商学研究科商学専攻は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。</p>	<p>商学研究科商学専攻では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生を受け入れる。</p>	
<p align="center">知識・理解</p>	<p>【学修成果の目標】 ・商学または経営学に関連する幅広く高度な専門知識を有することができる。(DP1) ・研究テーマについて独創的な研究成果をあげることができる。(DP2)</p> <p>【到達指標】 ・修了に必要な授業単位数を取得することができる。(DP1) ・研究成果を博士論文として作成し、提出することができる。(DP2)</p>	<p>【教育課程の編成】 リサーチワークを中心とした学習を行う。コースワークとして特修科目も設置している。したがってカリキュラムは、リサーチワークとしての研究指導科目と、コースワークとしての特修科目によって構成されている。学生は研究指導科目の履修で、研究能力を深めると同時に、特修科目の履修で研究の幅を広げることができる。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 ・商学研究科では、講義・演習を体系的に組み合わせ、自立した研究活動を促し、専門的研究者として活躍する人材を養成することを目指す。 ・指導教員等による論文指導、学会発表等に対応する細かな指導に加えて、高度な研究遂行能力や論理的思考力を獲得させるため、複数の教員による指導体制を整えている。また、学生が専門分野への理解をより一層深めるため、特修科目を設置し、必修科目として定めている。 ・社会経済環境の変化に適用するため、ICTを活用した講義形態を随時実施している。また、アクティブラーニングについても、今後積極的に取り組む方向で、試験的な運用を始めている。 ・シラバスには授業の概要や成績評価方法に加え、予習・復習に必要な学修時間を明確に記載し、適切な学修時間を確保している。 ・学位論文については、学内での公開の発表会等を通じて主査・副査をはじめとする複数の教員から指導が受けられる機会を設けている。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ・修了に必要な授業科目の単位数とシラバスに記載された各授業科目の到達目標ならびに成績評価基準により評価する。(DP1) ・公開での論文発表会、主査と副査による最終試験により評価する。(DP2)</p>	<p>【求める学生像】 (1) 産業界の中で活躍する専門的職業人（公認会計士・税理士等）を目指す者には、専門領域に関する高度な専門知識および社会的使命感を求める。 (2) 研究者志望の者には、研究領域に関する高度な専門知識、一貫した思考能力や実証的・体系的な研究能力に加えて、斬新性・オリジナリティーを追求する強い意欲を求める。</p>
<p align="center">技能</p>	<p>【学修成果の目標】 ・研究者として独創的な研究を自立して遂行できる研究能力を有している。(DP3) ・研究成果を論文として公表し、学会報告で有効に発信できるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を有している。(DP4)</p> <p>【到達指標】 ・研究内容に斬新性、オリジナリティーをもたせ、その成果を博士論文に結実できる。(DP3, DP4) ・論文の公表に加え、学会報告で成果をあげることができる。(DP4)</p>	<p>【教育課程の編成】 ・知識・理解の【教育課程の編成】に含まれる。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 ・知識・理解の【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】に含まれる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ・学位論文の成果については、商学研究科で定めた博士論文審査基準に則って評価する。(DP3) ・公開での論文発表会、主査と副査による最終試験により評価する。(DP3, DP4) ・学修成果は学会発表など外部の成果と修了に必要な授業の単位数と成績による内部評価を勘案して行う。(DP4)</p>	<p>【入学者選抜の在り方】 (1) 一般入学試験では、自立して研究を進めるために必要となる高度な専門知識や知的探求心、研究能力、外国語能力を有する学生を選抜するため、専門科目試験・外国語試験・口頭試問等によって総合的に評価する。 (2) 社会人入学試験では、社会経験に基づく明確な問題意識やより高度な商学的または経営学的素養を有する学生を選抜するため、専門科目試験・口頭試問等によって総合的に評価する。</p>
<p align="center">態度・志向性</p>	<p>【学修成果の目標】 ・研究を通じて、社会で活躍する専門的研究者として成長する意欲を持っている。(DP5)</p> <p>【到達指標】 ・研究を通じて、社会貢献に繋がる独創的な研究を行うことができる。(DP5)</p>	<p>【教育課程の編成】 ・知識・理解の【教育課程の編成】に含まれる。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 ・知識・理解の【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】に含まれる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ・学修成果の目標達成度を勘案し、修了に必要な授業単位数と成績により評価する。(DP5)</p>	<p>(3) 外国人留学生試験では、一定の日本語能力に加え外国語能力や、自立して研究を進めるために必要となる高度な専門知識を有する学生を選抜するため、書類選考・専門科目試験・外国語試験・口頭試問等により総合的に評価する。</p>

人材養成および教育研究上の目的	
<p>商学研究科商学専攻は、商学と経営学に関する専門的知識と体系的思考力を備え、流動的で複雑さを増す現代社会をリードし、新しい社会を創造する、高い学識と卓越した能力を有する人材の育成を教育研究の理念とし、研究者と専門職業人の養成及び再教育を目指す。そのため、積極的に多様な動機を持った学生を受け入れ、その様々なニーズに応じたカリキュラムを提供する。博士課程前期では、商学と経営学の二つのコースを設け、修了者には修士(商学又は経営学)の学位を授与する。学術的関心の高い学生のために、学部専門科目に連動した高度の科目群を提供し、税理士などの経理専門職を目指す者には、速やかな資格取得のための教育指導を行う。生涯学習やリカレント教育を求める社会人には、夜間にも開講して便宜を図る。さらにまた、海外からの留学生にも広く門戸を開放する。博士課程後期では、研究職を目指す者、高度専門職業人及びリカレント教育を求める社会人に、高度の学術的・専門的研究を成就させ、丁寧な学位取得のための指導を行うことによって、博士(商学)の学位を授与する。</p>	

三つの方針 (三つのポリシー)			
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)	学生の受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)	
<博士課程前期>			
<p>商学研究科商学専攻は、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、修士(経営学)の学位を授与する。</p>			
知識・理解	<p>【学修成果の目標】 ・専門的職業人として活動するために必要な経営学に関連する高度な専門知識や研究能力を修得し活用することができる。(DP1)</p> <p>【到達指標】 ・修了に必要な授業科目の単位数を取得している。(DP1) ・研究成果を修士論文として作成し提出することができる。(DP1)</p>	<p>【教育課程の編成】 ・経営学研究コースでは主要科目と専門科目を設置している。経営学分野における研究者および専門的職業人の要請ならびに社会人リカレント教育に応えるため、経営学に関する基礎理論およびその応用を具体化したカリキュラムで教育・研究指導を行っている。</p> <p>【教育課程の実施(教育方法・授業形態等)】 ・商学研究科では、講義・演習を体系的に組み合わせ、学生が自主的に学び、学習意欲・関心を高め、豊かな地域社会づくりに貢献する力を養うことを目指す。 ・講義・演習科目ではリサーチ能力・コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等を養成する手法を効果的に取り入れる。さらに、社会経済環境の変化に適用するため、ICTを活用した講義形態を随時実施している。また、アクティブラーニングについても、今後積極的に取り組む方向で、試験的な運用を始めている。 ・シラバスには授業の概要や成績評価方法に加え、予習・復習に必要な学修時間を明確に記載し、適切な学修時間を確保している。 ・学位論文については、学内での公開の発表会等を通じて主査・副査をはじめとする複数の教員から指導が受けられる機会を設けている。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ・修了に必要な授業科目の単位数とシラバスに記載された各授業科目の到達目標ならびに成績評価基準により評価する。(DP1) ・公開での論文発表会、主査と副査による最終試験により評価する。(DP1)</p>	<p>【求める学生像】 (1)産業界の中で活躍する専門的職業人(公認会計士・税理士等)を目指す者には、専門領域に関する基礎知識および社会的使命感を求める。 (2)リカレント教育のもと学び直しを志す社会人には、社会経験に基づく問題意識や商学的または経営学的素養を求める。 (3)課程修了後、博士課程後期への進学を目指す研究者志望の者には、研究領域に関する基礎知識、強い知的探求心、研究能力および外国語能力を求める。 (4)留学生志願者には一定の日本語能力および多文化理解への積極性を求める。</p>
技能	<p>【学修成果の目標】 ・経営学に関連する幅広く高度な専門知識に基づいた優れた課題発見能力及び課題解決能力を有している。(DP2) ・独創的な視点から研究を行い、必要な情報を収集・分析し、修士論文へと結実することのできる論理的思考力と論文作成能力を有している。(DP3) ・論理的思考力と論文作成能力を身に付けることによって自身の主張を明確に述べることができる。(DP4)</p> <p>【到達指標】 ・研究内容を独創的に修士論文に結実することができる。(DP2, DP3, DP4)</p>	<p>【教育課程の編成】 ・知識・理解の【教育課程の編成】に含まれる。</p> <p>【教育課程の実施(教育方法・授業形態等)】 ・知識・理解の【教育課程の実施(教育方法・授業形態等)】に含まれる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ・学位論文の成果については、商学研究科で定めた修士論文審査基準に則って評価する。(DP2, DP3, DP4) ・公開での論文発表会、主査と副査による最終試験により評価する。(DP2, DP3, DP4)</p>	<p>【入学者選抜の在り方】 (1)一般入学試験では、自主的に研究を進めるために必要となる専門領域に関する基礎知識や知的探求心、研究能力、外国語能力を有する学生を選抜するため、専門科目試験・外国語試験・口頭試問等によって総合的に評価する。 (2)推薦入学試験では、本学学部生として優れた基礎学力を修得し、専門領域に関する研究への知的探求心を有する学生を選抜するため、口頭試問によって総合的に評価する。 (3)社会人入学試験では、社会経験に基づく明確な問題意識や商学的または経営学的素養を有する学生を選抜するため、専門科目試験・外国語試験・口頭試問等によって総合的に評価する。 (4)外国人留学生試験では、一定の日本語能力や、自主的に研究を進めるために必要となる専門領域に関する基礎知識を有する学生を選抜するため、書類選考・専門科目試験・外国語試験・口頭試問等により総合的に評価する。</p>
態度・志向性	<p>【学修成果の目標】 ・経営学に関連する基礎知識を蓄える意欲を持っている(DP5) ・経営学に関連する強い知的探求心を持ち続けることができる。(DP6)</p> <p>【到達指標】 ・修了要件に定める所定の単位を修得している。(DP5) ・新しい企業価値を創造することができる。(DP6)</p>	<p>【教育課程の編成】 ・知識・理解の【教育課程の編成部分】に含まれる。</p> <p>【教育課程の実施(教育方法・授業形態等)】 ・知識・理解の【教育課程の実施(教育方法・授業形態等)】に含まれる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ・学修成果は修了に必要な授業単位数と成績により評価する(DP5, DP6)</p>	<p>(4)外国人留学生試験では、一定の日本語能力や、自主的に研究を進めるために必要となる専門領域に関する基礎知識を有する学生を選抜するため、書類選考・専門科目試験・外国語試験・口頭試問等により総合的に評価する。</p>